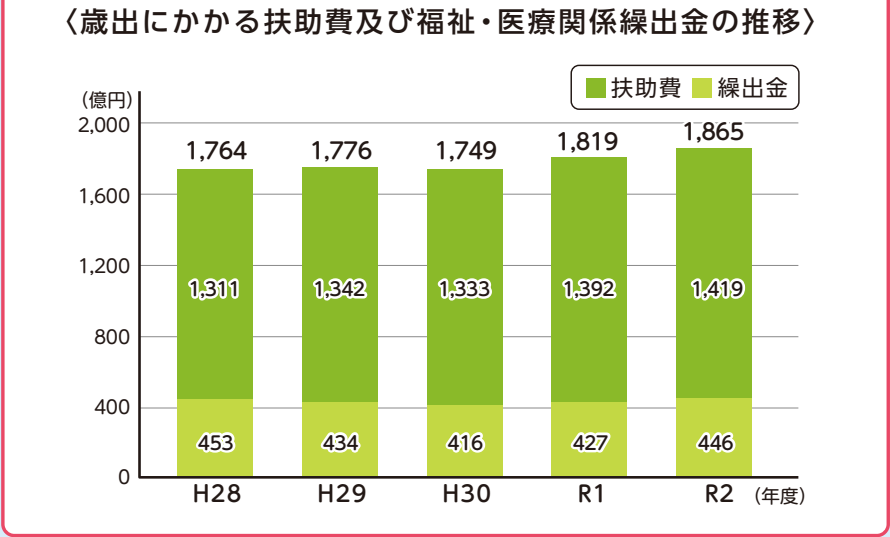
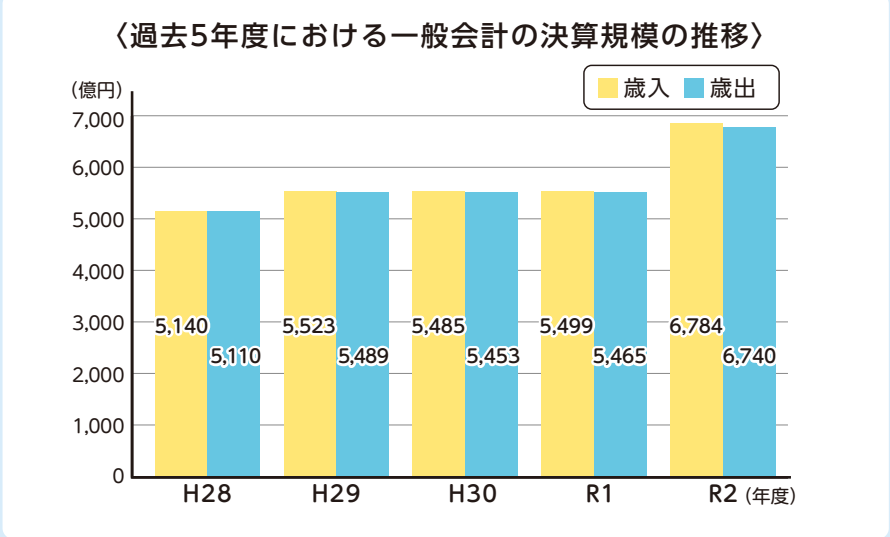
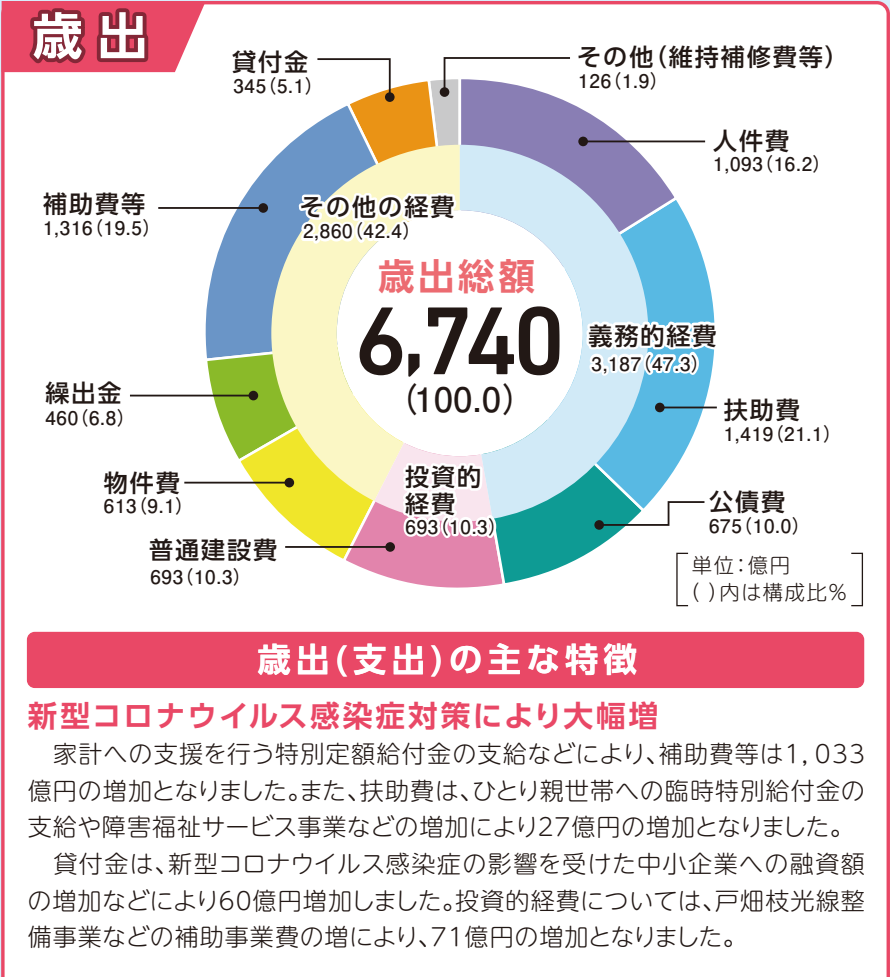
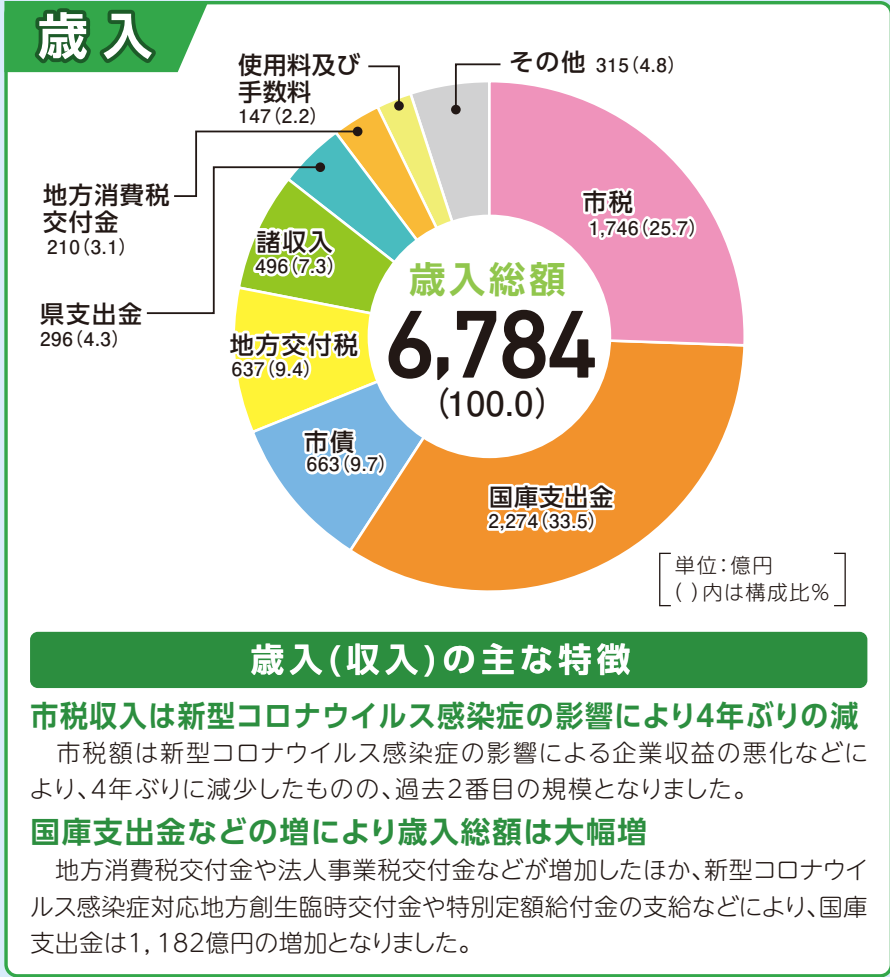
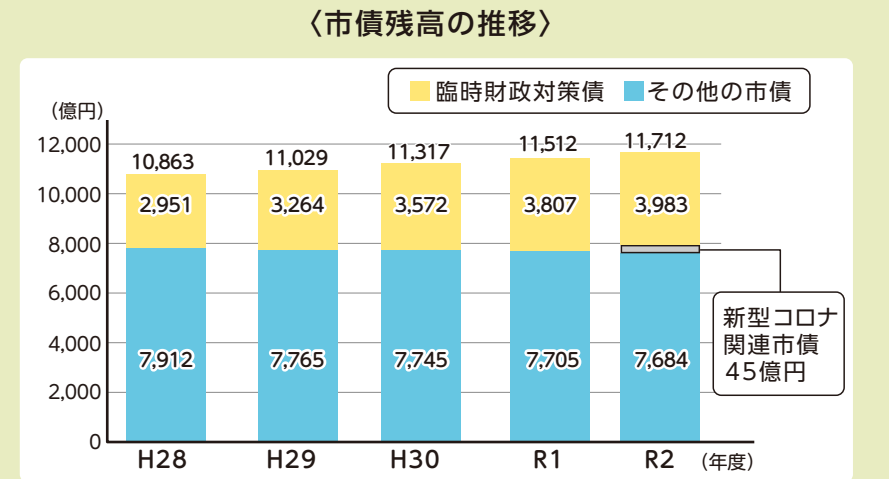


令和2年度決算の概要

令和2年度決算は、新型コロナウイルス感染症対策の実施などにより、歳入・歳出ともに過去最大の規模となりました。また、歳入から歳出と翌年度へ繰り越して実施する事業の財源を引いた実質収支は、11億8,300万円の黒字となりましたが、市の貯金である財源調整用基金の残高は、前年度末から減少しています。今後も、福祉・医療関係経費の伸びや市債残高の高止まりなどに注意する必要があります。



市債(市の借金)残高



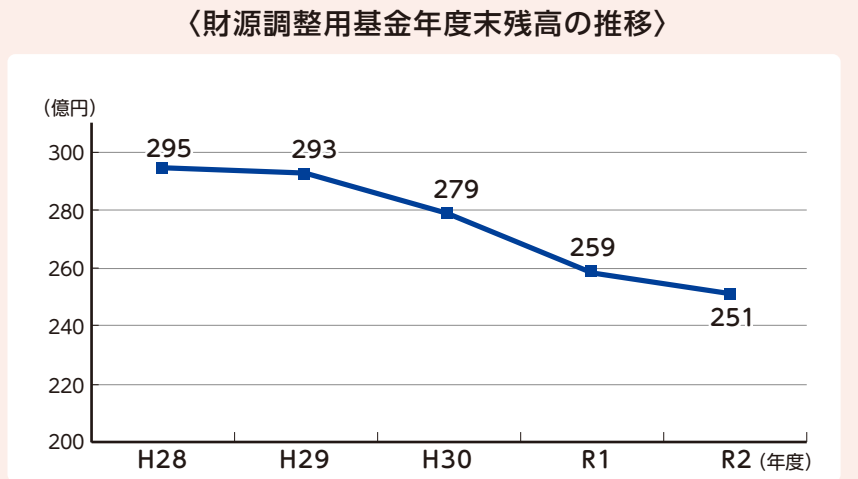
公共事業などのための市債残高は減少

臨時財政対策債(※1)や新型コロナウイルス感染症に伴う減収に対応するための特例的な市債の増加により、市債残高の総額は増加しています。しかし、公共事業などのためのその他の市債残高は7,684億円と、前年度に比べて21億円の減となりました。

※1……地方交付税(※2)の財源不足対策として、本来地方交付税で交付されるものの一部を、市債として借り入れることが認められているものです。このため、その返済については、後年度、その全額が地方交付税で措置されます。

※2……全国の地方公共団体が一定の標準的な行政サービスを提供できるように、国がその財源を保障し、国税の一定割合を地方公共団体に配分するものです。

財源調整用基金(市の貯金)残高



市の貯金は前年度より減少

令和2年度末における基金残高は、新型コロナウイルス感染症対策の実施や、扶助費などの義務的経費の高止まりなどにより、前年度末から8億円減少し、251億円となりました。

今後も、「北九州市行財政改革大綱」に基づき、より一層事業の「選択と集中」を図りながら、持続可能で安定的な財政運営を行っていきます。

財源調整用基金 収支不足や緊急の支出に備えて積み立てている「市の貯金」です。